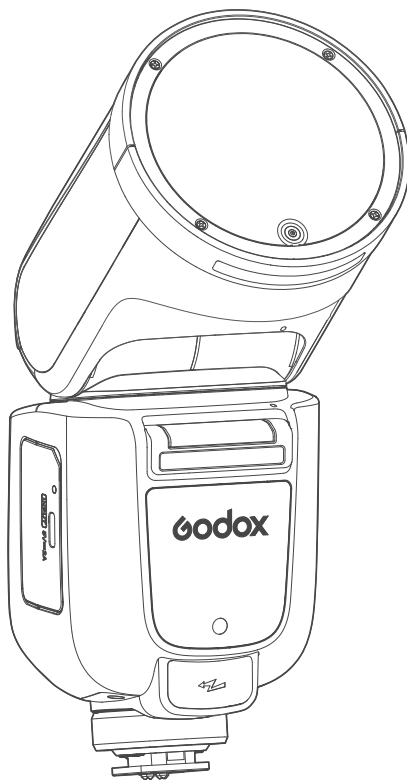


合格
証明書

Godox

V1Pro

TTL リチウムラウンドヘッドセットトップ
ブフラッシュライト



GODOX WeChat
公式アカウント

深セン市神牛摄影器材有限公司

所在地：深セン市宝安区福海街道塘尾社区福川工业区工場 2 棟

電話：0755-29609320(8062) Fax: 0755-25723423

メールアドレス：godox@godox.com

www.godox.com

Made in China | 705-V1PR00-03



V1Pro S / V1Pro F / V1Pro O

取扱説明書

安全上のご注意

重要な安全上の注意: 本製品は専門的な撮影装置であり、専門者によって操作する必要があります。

使用する際に遵守すべき基本安全対策: 使用前に製品の運送保護材と梱包材をすべて除去してください。

1. 製品を使用する前に、取扱説明書をよく読んで完全に理解し、説明書の安全提示に厳密に従って操作してください。そうしないと、死亡、重大な傷害、製品の損傷、その他の財産損失を招く恐れがあります。
2. これはプロの照明器具であり、子供の使用は禁止されています。子供が近くにいる場合、親または保護者は、子供が照明器具にぶつかったり、使用したりすることによる人的傷害を避けるために、注意深く監視する必要があります。
3. この照明器具は通常の照明器具ではありません、一般照明には使用できません。目に損傷を受けている方や目が敏感な方は、この照明器具を使用しないでください。
4. 火傷を避けるために、フラッシュチューブなどの高温部に触れないでください。火傷の原因となります。
5. いかなる場合でも、フラッシュライトを直接人の目（特に赤ちゃんの目）に向けてはなりません。短時間で視力障害を引き起こす可能性があります。目に不快感があったら、直ちに照明器具を消し、使用を中止し、直ちに診察を受けてください。
6. 破損した機器や機器の付属品を使用しないでください。また、専門の保守担当者が点検と修理を行い、機器が正常であることを確認してから使用してください。
7. 使用中に落下、圧迫、または強い衝撃により製品のケースが破損した場合は、内部の電子部品との接触による感電と傷害を避けるため、使用を中止してください。
8. この機器は防水機能を備えていません。水や他の液体の浸入を避けてください。換気が良い乾燥場所に設置してください。雨天、高湿、ほこりの多い又は高温環境では使用しないでください。危険事故を防ぐため、設備の上に物を置いたり、液体を内部に流させたりしないでください。
9. 許可を得ることなく、この製品を勝手に分解しないでください。故障した場合は、当社または認定保守員に点検と修理を依頼してください。
10. この機器を保管する前に、機器が完全に冷却したことを確認してください。
11. アルコール、ガソリンなど、可燃性や揮発性溶媒やメタン、エタンなどのガスの近くに置かないでください。
12. 爆発の危険がある環境での使用や保管は禁止されます。
13. 運転中と運転後、機器のヘッドとユーザーや他の人、および感熱性又は可燃性物品との間には、常に少なくとも1メートルの距離を維持しなければなりません。
14. 当社が承認されていない部品を使用しないでください。火災、感電、人身傷害の原因になります。
15. 機器を清掃するときは、乾燥した柔らかい布でやさしく拭いてください。湿った布を使用してはいけません。そうしないと機器が破損する可能性があります。
16. この取扱説明書は、厳密な試験に基づいて制定され、予告なく設計と仕様変更を行う場合があります。お客様は、神牛の公式ウェブサイトでの最新の電子版説明書を確認し、最新の製品情報を把握することができます。
17. この製品はリチウムバッテリーで電力を供給しています。リチウムイオンバッテリーの耐用年数は限られており、電力蓄積能力が不可逆的に徐々に失われます。バッテリーが老化すると、製品の持続使用時間が減少します。リチウムイオンバッテリーの耐用年数は2~3年と予測されます。定期的にバッテリーの状態をチェックしてください。充電時間が大

幅に長くなり、持続使用時間が顕著に減少したりした場合は、新しいバッテリーの交換を検討してください。

18. リチウムバッテリーを搭載しており、次のように貯蔵してください: 貯蔵する前に、約50%の電力량まで充電してください。少なくとも6ヶ月に1回約50%の電力量まで充電してください。取り外し可能なバッテリーは単独で保管してください。貯蔵温度は0°Cから40°Cの範囲内に制御してください。
19. バッテリー使用上のご注意:
 - ・ バッテリーを分解したり、押し付けたり、刺したりしないでください。
 - ・ バッテリーは防水機能を備えていません、バッテリーを霧や水に浸してはいけません。
 - ・ バッテリーの接点の短絡を避けてください。
 - ・ バッテリーを火の近く、又は火の中に投げないでください。
 - ・ バッテリーを60°C以上の高温環境に置かないでください。
 - ・ バッテリーをお子様の手が届かない場所に置いてください。
 - ・ バッテリーに強い衝撃や振動を与えないでください。
 - ・ 破損したバッテリーは使わないでください。
 - ・ 漏れが発生した場合は、漏れた液体には接触しないでください。
 - ・ バッテリーの液体が目に着した場合、すぐに水で少なくとも15分間洗い流し、まぶたを開けて液体の感覚がなくなってからすぐに診察を受けてください。
20. バッテリーを処分する前に、現地の法律法規を確認し、遵守してください。
21. この機器の保証期間は1年です。消耗品であるバッテリー、アダプター、電源ケーブル、およびその他の付属品は、保証の対象外です。
22. 22. 自分で勝手に修理する場合は保証資格を取り消し、修理費用を請求します。
23. リチウムイオンバッテリーを受け取ってからバッテリーの状態、バッテリー残量を検査してください。品質問題があれば、保証期間内にGodox又はGodoxが承認された販売店にお問い合わせください。
24. 不適切な操作による故障は、保証対象外です。

前書き

Godox の製品をご購入いただき、ありがとうございます。

セットトップフラッシュライト V1Pro シリーズはソニーカメラ (V1Pro S)、富士カメラ (V1Pro F)、Olympus/Panasonic カメラ (V1Pro O) に適用され、TTL オートフラッシュも利用できます。TTL フラッシュライトを使用すると、より簡単な撮影体験を実現し、光の変化が複雑な場合には、自動的に正確なフラッシュ露光を実現し、撮影が簡単になります。

主な特徴

- 円頭レンズ設計を採用し、光が均一で柔らかくて、より多くのクリエイティブな光効果を作り出す。
- 2W LED 造形ライト、1-10 段階輝度調整、補光効果を果たす。
- 1/1 段階 (M 段階) のフラッシュパワーは 76Ws であり、81 段階調光できる (1/1~1/256)。
- 7.2V 2980mAh リチウムバッテリーを搭載し、1/1 段階のフラッシュ出力時の充電時間はわずか 1.3s。
- 複数種の型番に使用でき、TTL オートフラッシュに対応でき、無線出力フラッシュシリーズのマスターユニット又はスレーブユニットとして使用でき、撮影が簡単に迅速である。
- ドットマトリクス液晶パネルで一目瞭然であり、操作がより簡単で便利である。
- 2.4G 無線送信と受信、遠距離でフラッシュライトを制御でき、無限なクリエイティブ。
- 外付けフラッシュライトの電源ボックス PB960 を使用でき、充電速度が大幅に向上させる。
- 外付け補助フラッシュライト SU-1 を使用でき、人物像により良い造形補光を与え、人物像の撮影によく用いられる。
- 様々な機能を備えており、手動フラッシュモード、ストロボフラッシュモード、高速同期、第 2 シャッター同期、フラッシュ露光補正などの機能に対応できる。
- 出力が安定した高速連続フラッシュ、出力輝度と色温度が連続で一致であり、光線分布が均一である。
- ファームウェアのアップデートに対応でき、Godox は元工場のカメラに合わせて、タイムリーにフラッシュライトのソフトウェアを最適化している。

注：フラッシュライトの電源ボックス PB960 は別途購入してください。

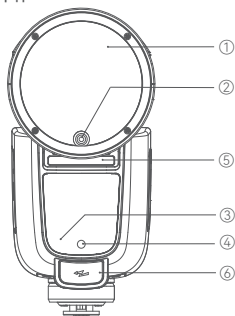
CLASS 1 CONSUMER LASER PRODUCT

目次

01	前書き
01	主な特徴
03	部品名
	本体
	コントロールパネル
	分割式サブフラッシュライト SU-1
	LCD 液晶ディスプレイ
05	部品リスト
05	別途購入可能付属品
06	バッテリーの着脱
06	バッテリー残量表示
06	電源管理
07	造形ライト
07	フラッシュライトの着脱
07	分割式サブフラッシュライト SU-1 の着脱
08	分割式サブフラッシュライト SU-1 の使用
09	フラッシュモード --TTL: オートフラッシュ
	フラッシュ露出補正
	高速同期
	リアカーテン同期
11	フラッシュモード --M: 手動フラッシュ
12	フラッシュモード --Multi: ストロボフラッシュ
14	ワイヤレスフラッシュ撮影 (2.4G ワイヤレス伝送)
	無線伝送無線設定
	マスターユニットフラッシュの設定
	ワイヤレスチャンネルの設定
	ID 設定
	アイドルチャンネルのスキャン
	TTL: 全自動ワイヤレスフラッシュ撮影
	M: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影
	Multi: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影
	TTL 段階 /M 段階調整ダイヤル機能
	画面ロック
	モードロック
21	Godox 2.4G ワイヤレスフラッシュ漏れの原因及び解決策
	その他の応用
	同期ソケットトリガー
	造形フラッシュ
	自動サブフォーカスライト
	反射フラッシュ
	ZOOM: フラッシュカバー範囲の設定
	バッテリー残量不足警告
24	C.Fn: カスタム機能の設定
25	保護機能
26	仕様
27	トラブルシューティングガイド
28	ファームウェアアップデート
28	利用できるカメラリスト
29	メンテナンス

部品名

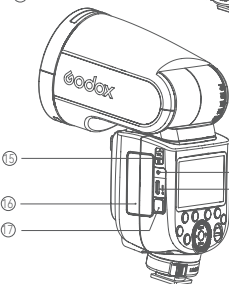
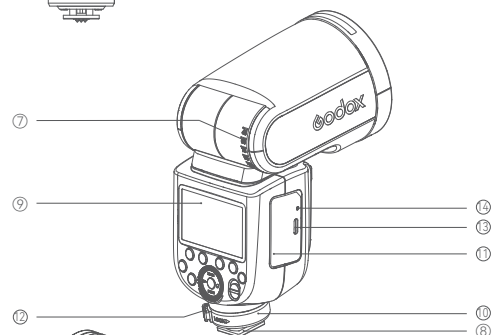
本体



1. フラッシュヘッド
2. LED 造形ライト
3. 光制御センサー
4. 補助フォーカスライト
5. 外付けフラッシュライトポート
6. 外付け電源ボックスポート
7. 反射角度の目盛り
8. ホットシュー
9. 液晶ディスプレイ
10. ホットシューカラー
11. リチウムバッテリー
12. ホットシュー固定ボタン
13. USB-C 充電ポート
14. 充電インジケータランプ

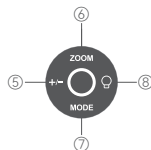
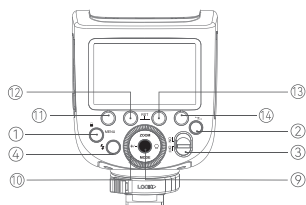


注：V1 Pro S ホットシュー接続



15. TTL 段階 / M 段階調整ダイヤル
16. バッテリーケース
17. バッテリー取出しボタン
18. 同期ソケット
19. USB-C アップデートポート

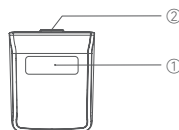
コントロールパネル



1. MENU / 長押しボタン (長押しして画面をロック / アンロック)
2. <Z> / ワイヤレスボタン
3. ON/OFF オン・オフボタン
4. フラッシュ試験ボタン / 充電インジケータ
5. <F> / フラッシュ露出補正 / フラッシュ出力設定ボタン
6. ZOOM ボタン

7. MODE モードボタン
8. LED 造形ライトボタン
9. 設定ボタン
10. 調整ダイヤル
11. 機能ボタン 1
12. 機能ボタン 2
13. 機能ボタン 3
14. 機能ボタン 4

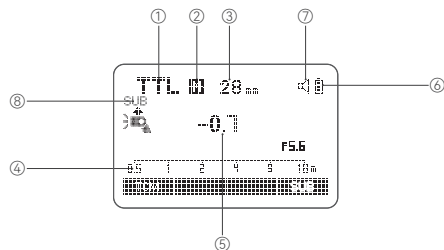
分割式サブフラッシュライト SU-1



1. ランプ
2. バヨネットプッシュ

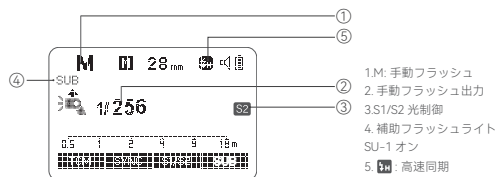
LCD 液晶ディスプレイ

TTL オートフラッシュ



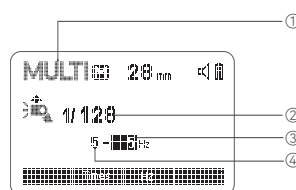
1. TTL-TTL オートフラッシュ
2. A: 自動ズーム M: 手動ズーム
3. ズーム表示
4. 有効フラッシュ範囲 / 撮影距離 (m: メートル, ft: フィート)
5. フラッシュ露出補正量
6. バッテリー残量表示
7. ブザー
8. 補助フラッシュ SU-1 オン

手動フラッシュ



- 注: 1. 現在のアプリケーション/設定が表示されます。
2. < SYNC 及び M/A/B/C > のように、機能ボタン 1 から機能ボタン 4 の上方に表示される機能は、設定された状態に応じて変化します。
3. ボタンを操作し、又はダイヤルを調整するとき、液晶ディスプレイが点灯します。
4. セットトップフラッシュライト V1 Pro は補助フラッシュライト SU-1 に挿入しないと、画面には <SUB> 文字が表示されません。

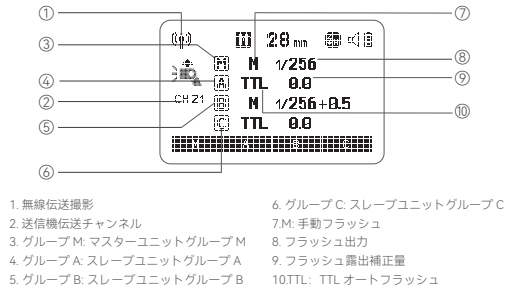
ストロボフラッシュ



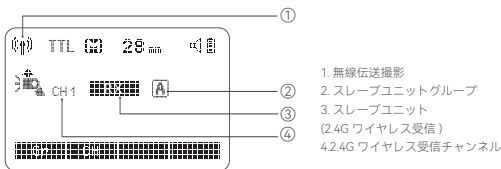
1. MULTI: 多重 (ストロボ) フラッシュ
*V1 Pro N は RPT と表示する
2. ストロボフラッシュ出力
3. フラッシュ周波数
4. フラッシュ回数

無線伝送撮影

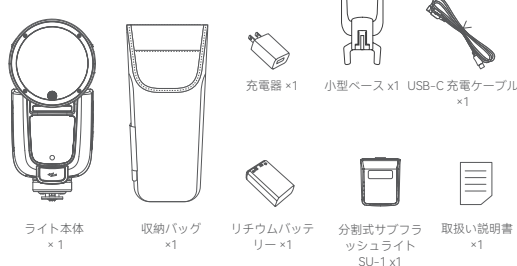
マスターユニット (2.4G ワイヤレス送信)



スレーブユニット (2.4G ワイヤレス受信)

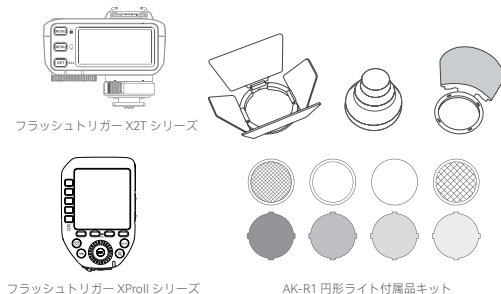


部品リスト



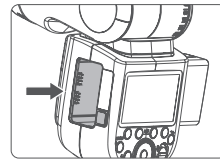
別途購入可能付属品

当社の以下の撮影付属品を別途購入して、最適な撮影効果と使用体験を得ることができます。



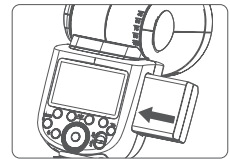
バッテリーの着脱

バッテリーの取外し:



親指でバッテリーボタンを押しながら、バッテリーを押し下げて取り出すことができます。

バッテリーの取付け:



バッテリーの指示方向に沿ってリチウムバッテリーをバッテリーケースに挿入し、ファスナーが引っかかると取付が完了します。

バッテリー残量表示

リチウムバッテリーをフラッシュライトに正しく装着すると、フラッシュライトに電力を供給することができます。使用するときは、フラッシュライト画面のバッテリーアイコンを見て、いつでもバッテリー残量を把握することができます。

バッテリー残量表示	説明
3 本	高い
2 本	中程度
1 本	低い
ない	バッテリー残量が不足、直ちに充電してください
点滅	バッテリー残量がすぐになくなります、フラッシュライトは使用できません。 注: この場合は直ちに (10 日以内) 充電してください、そうでなければ、使用又は保管することができません。

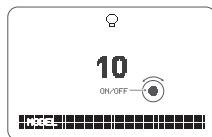
電源管理

ボタンを押してオン / オフすることができます。フラッシュライトは長時間使用しない場合は、電源をオフにしてください。この製品は電源自動オフ機能があり、マスターユニットとして使用する場合は、所定の時間 (約 90 秒) を超えて何らかの操作をしないと、フラッシュライトが自動的にオフになり、シャッターボタンを半押し又は本体の任意のボタンを押してフラッシュライトをウェークアップすることができます。スレーブユニットとして使用する場合は、60 分 (または 30 分) 以上何らかの操作をしないと、フラッシュライトがスリープ状態になり、使用時に本体の任意のボタンを押してウェークアップすることができます。

- 注: 1. オフラインで使用する場合は、MENU ボタンを短押ししてメニューに入り、C.Fn-STBY を OFF (オフ) に設定することができます。
2. フラッシュライトをスレーブユニットとして使用する場合、電源を自動的にオフするタイマー出荷時のデフォルト設定は 60 分です。MENU ボタンを短押ししてメニューに入って C.Fn-RX STBY を 30min に設定すると、自動オフ時間を 30 分に変更することができます。
3. ボタンを操作し、又はダイヤルを調整するとき、液晶ディスプレイが点灯します。

造形ライト

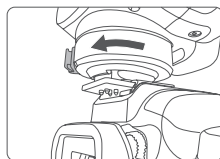
造形ライトのボタンを短押しして造形ライトの設定に入るか、終了し、設定ボタンを短押しして造形ライトをオン又はオフにします。造形ライトをオンにしてダイヤルを回すと造形ライトの輝度を調整することができ、01-10で調整できます。MODELの機能ボタン1を短押しすると、造形ライトモードが切り替わり、表示画面にトリガーアイコンが消灯<🔌>又は常時点灯<🔌>と表示されます。



フラッシュライトの着脱

取付け

ホットシューの固定ボタンを押しながら左に回すと、カメラのホットシューを挿入できます。

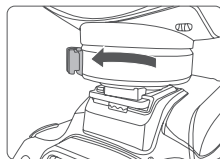


フラッシュライトのホットシューのカラーを右に回すと、ホットシューを固定することができます。



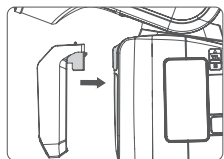
取外し:

ホットシューの固定ボタンを押しながら左に回すと、ホットシューを緩め、フラッシュライトを取り外して完了します。



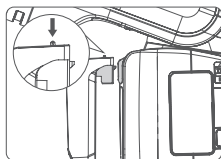
分割式サブフラッシュライト SU-1 の着脱

取付け:



分割式サブフラッシュライト SU-1 をセットトップフラッシュライト V1 Pro 外付けフラッシュライトポートに合わせて平行に押し込み、「カチッ」と音がすると取付けが完了します。

取外し:

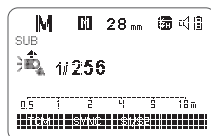


分割式サブフラッシュライトの取り外しボタンを押しながら、上に取り出すと完了します。

注: フラッシュライト V1 Pro の電源を切ってから、SU-1 サブフラッシュライトの着脱を行ってください。メインライトの電源がオンまたは動作している場合は、SU-1 サブフラッシュライトを無理に挿入したり抜き出したりしないでください。SU-1 の破損原因になります。

分割式サブフラッシュ SU-1 の使用

セットトップフラッシュ V1 と比較して、セットトップフラッシュ V1 Pro は外付けフラッシュポートを増加し、分割式サブフラッシュ SU-1 を使用して、M 段階の手動フラッシュ出力 / TTL オートフラッシュ出力時に、物体のより良い補光効果を実現することができ、よく人像撮影に用いられます。



使用手順

分割式サブフラッシュライト SU-1 をセットトップフラッシュライト V1 Pro 外付けフラッシュライトポートに合わせて平行に押し込み、「カチッ」と音がすると取付けが完了します。機能ボタン 1 < MODEL > を短押ししてフラッシュライト画面に < M > M 段階の手動フラッシュ又は < TTL > TTL オートフラッシュを表示させ、機能ボタン 4 < SUB > を短押しすると補助フラッシュライト設定画面に入り、機能ボタン 3 < ON / OFF > を短押ししてオフ / オンすることができます。



補助フラッシュライトをオンにした状態で、調整ダイヤルを回すと補助フラッシュライトの出力を調整することができ、22 段階のフラッシュパワーがあり、調整範囲は 1/128-1/1 であり、回すたびに +1/3 単位で調整できます。

注: 1. 無線伝送撮影時には外付けフラッシュライト SU-1 は使用できません。
2. 高速同期時には外付けフラッシュライト SU-1 は使用できません。
3. 外付けフラッシュライトを使用するには、フラッシュライトのヘッドを持ち上げる必要があります。

フラッシュモード --TTL: オートフラッシュ

TTL モードでは、カメラの測光システムが本体から反射してきたフラッシュ照明を検出し、それによりフラッシュ出力量を自動的に調整し、本体と背景を均等に露出させます。TTL モードは露出補正、高速同期、リアカーテン同期などの機能に対応できます。

MODE モードボタンを短押しして TTL モードに切り替えると、画面の左上隅に <TTL> が表示され、フラッシュが TTL モードに入ったことを示します。

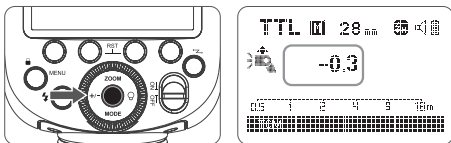
- カメラのシャッターボタンを半押しして焦点を合わせると、絞り値と有効フラッシュ範囲が画面に表示されます。
- シャッターが開放される前の瞬間にプリフラッシュを行い、フラッシュライトはカメラ情報を受信してメインフラッシュを行います。

フラッシュ露出補正

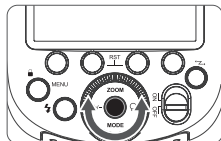
このフラッシュライトは ±3 段階の間で 1/3 単位でフラッシュの露出補正を調整することができます。この機能は、環境に応じて TTL システムを微調整する場合に便利です。

フラッシュ露出補正値の設定

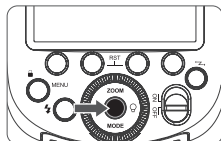
1.<+/-> ボタンを短押しすると、フラッシュ露出補正値が強調表示されます。



2. 調整ダイヤルを回してフラッシュ露出補正量を設定します。「0.3」は 1/3 段階、「0.7」は 2/3 段階です。フラッシュ露光補正を取り消すには、フラッシュ露光補正量を「0」に設定してください。



3. 最後に設定ボタンを短押しし、フラッシュ露出補正値を確定します。

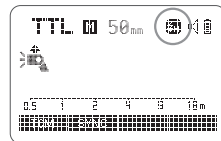


高速同期

高速同期（FP フラッシュ）を使用すると、任意のシャッター速度でフラッシュを同期させることができます。# 高速同期フラッシュは、絞りを使用して優先的に人物像を充填する場合に特に便利です。

V1Pro S

1. 機能ボタン 2 < SYNC > を押して、画面に <FP> アイコンを表示させます。



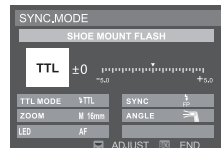
2. カメラファインダーに <FP> アイコンが表示されているかどうかを確認します。

- 注：1. シャッタースピードがカメラの最大フラッシュ同期速度と等しいか遅い場合、ファインダーには <FP> が表示されません。
2. 通常のフラッシュを復元するには、再度 < SYNC > ボタンを押すと <FP> アイコンが消えます。

V1Pro F

セッテッドフラッシュライト高速同期の設定

カメラ撮影メニューの <FP フラッシュ設定> フラッシュライト機能設定を使用してフラッシュライトの設定を調整します。詳細については、カメラの取扱説明書をご参照ください。



X-T2 のフラッシュライト機能設定メニュー

- 注：1. 「SYNC」オプションで FP を選択すると、高速同期機能がオンになります。

V1Pro O

1. 機能ボタン 2 < SYNC > を押して、画面に <FP> アイコンを表示させます。

2. OLYMPUS カメラで OK または <4> を押し、松下カメラは MENU ボタンを押してフラッシュモードの設定に入り、強制フラッシュを選択し、カメラに <4> が現れたからカメラシャッターを設定します。

- 注：1. 通常のフラッシュを復元するには、再度 < SYNC > ボタンを押すと <FP> アイコンが消えます。
2. Panasonic カメラはリモコンモードで、高速同期フラッシュに非同期現象が発生する場合があります！

- 注：1. 高速同期を使用すると、シャッタースピードが高いほど、有効なフラッシュ範囲が小さくなります。
2. 高速同期モードでは、ストロボフラッシュを設定できません。
3. 60 回連続して高速同期フラッシュを行うと、フラッシュライトの熱保護機能が有効になる可能性があります。

以リアカーテン同期

スローシャッターとリアカーテン同期を使用すると、被写体の後ろに光の軌跡を作成し、シャッターを閉じる前の瞬間にフラッシュすることができます。

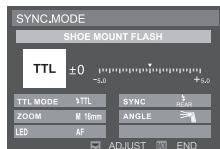
V1Pro S

SONY カメラ本体の設定において REAR フラッシュ方式を選択すると、リアカーテン同期を設定することができます。

V1Pro F

リアカーテン同期の設定

カメラ撮影メニューの <  フラッシュ設定 > フラッシュライト機能設定を使用してフラッシュライトの設定を調整します。詳細については、カメラの取扱説明書をご参照ください。



X-T2 のフラッシュライト機能設定メニュー

注: 「SYNC」オプションで REAR を選択すると、リアカーテン機能がオンになります。

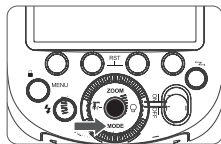
V1Pro O

OLYMPUS カメラで OK または <  > を押し、松下カメラは MENU ボタンを押してフラッシュモードの設定に入り、強制フラッシュを選択し、カメラに < 2nd-C  > が現れてからカメラシャッターを設定します。

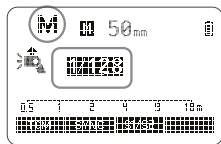
フラッシュモード --M: 手動フラッシュ

フラッシュ出力は、1/256 から 1/1 のフルパワーの間で 1/10 段階で設定できます。正しいフラッシュ露出を得るためには、手持ち式フラッシュ光測定器を使用して必要なフラッシュ出力を確認できます。

1. MODE ボタンを短押しし、画面に <M> を表示させます。



2. <+/-> ボタンを短押ししてフラッシュ出力値を選択し、ダイヤルを回してフラッシュ出力値を調整し、調整後に設定ボタンを短押しして完了します。



S1 光制御ユニットの設定

M 手動フラッシュモードで S1 機能を使用することができ、フラッシュライトはサブランプとして使用することができ、複数種の照明効果を作り、手動フラッシュ環境に適します。メインフラッシュライトの最初のフラッシュと同期してフラッシュをトリガーし、その効果はワイヤレスフラッシュトリガーを使用する場合と同じです。

S2 光制御ユニットの設定

M 手動フラッシュモードで S2 機能を使用することができ、フラッシュライトはサブランプとして使用することができ、TTL フラッシュ環境に適します。プリフラッシュ防止機能があり、1 回のプリフラッシュ機能を備えるカメラを使用すると、光制御で同期撮影を実現することができます。メインフラッシュライトの 2 回目のフラッシュと同期してフラッシュをトリガーすることができます、すなわち、2 回光制御フラッシュです。

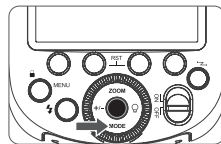
注: 1.S1/S2 光制御フラッシュは、M モードでのみ実現できます。

2. 機能ボタン 3<S1/S2> を短押しして S1/S2 を切り替え、又はこの機能をオフにすることができます。

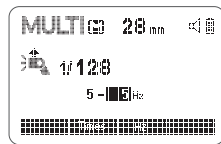
フラッシュモード --Multi: ストロボフラッシュ

スローシャッターでストロボフラッシュを使用するとき、1 枚の写真に複数の連続した動作を撮影することができます。フラッシュ周波数 (1 秒間のフラッシュ回数、Hz で示す)、フラッシュ回数とフラッシュ出力を設定できます。

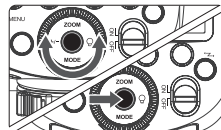
1. MODE ボタンを短押しし、画面に <Multi> を表示させます。



2. 機能ボタン 2<Times> を短押ししてフラッシュ回数を選択し、ダイヤルを回してフラッシュ回数を調整し、調整後に設定ボタンを短押しして完了します。機能ボタン 3<Hz> を短押ししてフラッシュ周波数を選択し、ダイヤルを回してフラッシュ周波数を調整し、調整後に設定ボタンを短押しして完了します。



3. <+/-> ボタンを短押ししてフラッシュ出力値を選択し、ダイヤルを回してフラッシュ出力値を調整し、調整後に設定ボタンを短押しして完了します。フラッシュ出力範囲: 1/256~1/4。



シャッタースピードを決定する方法

ストロボフラッシュが停止するまで、シャッターは開いた状態にしておく必要があります。次の式を使用してシャッタースピードを計算し、カメラで設定します。

$$\text{フラッシュ回数} \div \text{フラッシュ周波数} = \text{シャッタースピード}$$

例えば、フラッシュ回数を 10（回）、フラッシュ周波数を 5（Hz）に設定した場合、シャッター速度を 2 秒以上に設定する必要があります。

⚠ フラッシュヘッドの過熱による損傷を防ぐため、連続して 10 回以上フラッシュを行わないでください。10 回フラッシュした後、少なくとも 15 分間冷却してください。連続して 10 回以上フラッシュして連続撮影を行った場合、フラッシュヘッドが過熱しないように、フラッシュが自動的に停止する可能性があります。このような状況が発生した場合は、フラッシュライトを少なくとも 15 分冷却してください。

注：1. 反射が強い被写体は、暗い背景の前にストロボフラッシュを使用するとより効果的です。
2. 三脚と TTL フラッシュトリガー XPROII の使用をお勧めします。
3. 1/1 と 1/2 フラッシュ出力は設定できません。
4. カメラ撮影モードが B バルブモード撮影（bulb）に設定されていても、ストロボフラッシュを行うことができます。
5. ストロボフラッシュモードは高速同期を設定できません。
6. フラッシュ回数が -- と表示されている場合は、シャッターがオフになったり、電力がなくなるまで連続的にフラッシュします。最大連続フラッシュ回数を下の表に示します。

最大連続フラッシュ回数

フラッシュ出力 \ Hz	1	2	3	4	5
1/4	8	6	4	3	3
1/8	14	14	12	10	8
1/16	30	30	30	20	20
1/32	60	60	60	50	50
1/64	90	90	90	80	80
1/128	90	90	90	90	90
1/256	90	90	90	90	90

フラッシュ出力 \ Hz	6-7	8-9	10	20-50	60-100
1/4	2	2	2	2	2
1/8	6	5	4	4	4
1/16	20	10	8	8	8
1/32	40	30	20	16	12
1/64	70	60	50	30	20
1/128	90	80	70	40	40
1/256	90	80	70	40	40

ワイヤレスフラッシュ撮影 (2.4G ワイヤレス伝送)

本章では、無線伝送を用いたフラッシュ送受信による撮影について説明します。

本章では、カメラに取り付けた V1Pro をマスターユニット、ワイヤレス制御の V1Pro をスレーブユニットと呼びます。

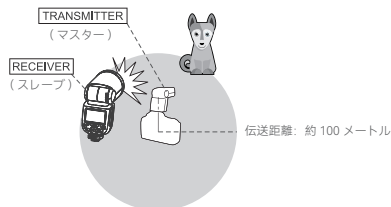
また、TTL フラッシュトリガー XPROII ワイヤレス制御をスレーブユニットとした V1Pro を別途購入することもできます。フラッシュトリガー制御の詳細については、別途購入したフラッシュトリガーの説明書を参照してください。

ワイヤレス伝送とワイヤレス撮影機能を備えたフラッシュを使用すると、通常の TTL オートフラッシュ撮影と同様の方法で、高級無線多重フラッシュで簡単に撮影することができます。

V1Pro（マスターユニット）の設定は、マスターユニットとスレーブユニットのチャンネル、グループ、ID が一致する関連ワイヤレス設定に設定されている限り、ワイヤレス制御の V1Pro（スレーブユニット）に自動的に適用されます。従って、撮影するときに受信ユニットの操作は不要です。

位置付けと操作範囲（ワイヤレスフラッシュ撮影事例）

・1つのスレーブユニットを使用したオートフラッシュ撮影

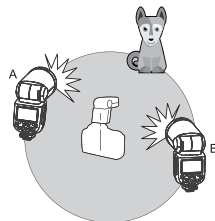


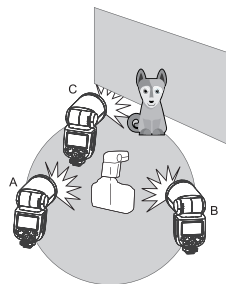
注：1. 撮影前にフラッシュ試験と撮影試験を行ってください。
2. スレーブユニットの位置、周辺環境、天気などの影響を受けて、伝送距離が短くなる場合があります。

複数のスレーブユニットを使用したオートフラッシュ撮影

スレーブユニットを 2 つ又は 3 つのグループに分割し、フラッシュ比（フラッシュ出力率）を変更しながら TTL オートフラッシュ撮影を行うことができます。また、各フラッシュグループ（最大 4 グループ）に対して異なるフラッシュモードを設定し、使用して撮影することができます。

・2つのスレーブユニットを使用したオートフラッシュ撮影



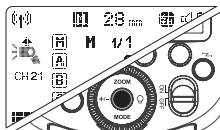


無線伝送無線設定

通常のフラッシュ/ワイヤレスフラッシュを切り替えることができます。通常のフラッシュを使用する場合は、「ワイヤレスを「オフ」に設定し、すなわち、画面に<(P)>が表示しないようにしてください。

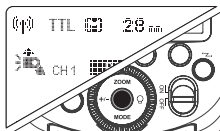
フラッシュライトをマスターユニットに設定

<Z>ワイヤレスボタンを短押しして画面に<(P)>を表示させるが、<RX>を表示しないようにします。



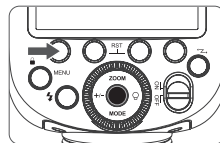
フラッシュライトをスレーブユニットに設定

<Z>ワイヤレスボタンを短押しして画面に<(P)>と<RX>を表示させます。

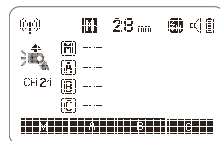


マスターユニットフラッシュの設定

1. <Z>ワイヤレスボタンを短押しして画面に<>を表示させるが、<(P)>を表示させるが、<RX>を表示しないようにします。機能ボタン1<M>を短押しして---/TTL/Mの間で切り替わり、マスターユニットとしてのフラッシュモードを選択することができます。



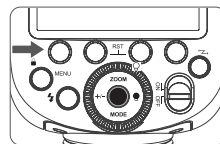
2. MODE ボタンを押して Multi モードに切り替えることができます。



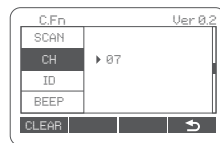
ワイヤレスチャンネルの設定

撮影現場で複数のワイヤレスフラッシュシステムを使用している場合は、ワイヤレスチャンネルを変更することで信号干渉を防ぐことができますが、マスターユニットとスレーブユニットが同じチャンネルに設定されていることを保証する必要があります。

1.MENU ボタンを短押ししてメニュー設定に入ります。ダイヤルを<CH>に回し、短押しして選択された CH 値を設定します。



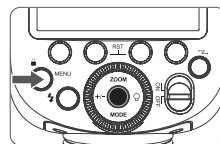
2. ダイヤルを回してワイヤレスチャンネルを調整し、調整範囲は 01-32 です。調整後に設定ボタンを短押しして完了します。



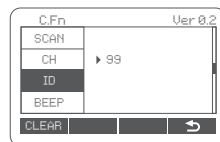
ID 設定

信号干渉を回避するために、ワイヤレス通信チャンネルを変更することに加えて、ワイヤレス ID を変更することによって干渉を防止することができます。この場合は、マスターユニットとスレーブユニットは同じチャンネルとワイヤレス ID に設定する必要があります。C.FnID に入り、01-99 からいずれかのワイヤレス ID を開き、OFF を選択すると ID がオフになります。

1.MENU ボタンを短押ししてメニュー設定に入ります。ダイヤルを<ID>に回し、設定ボタンを短押しして ID 値を選択します。



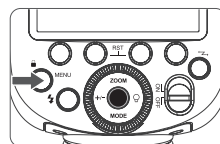
2. ダイヤルを回すとワイヤレス ID を調整することができます。調整範囲は OFF/01-99 です。調整後に設定ボタンを短押しして完了します。



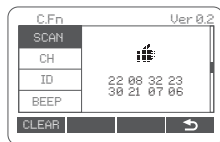
アイドルチャンネルのスキャン

他人が自分と同じチャンネルを使って撮影干渉を受けることを防止するため、アイドルチャンネルのスキャン機能を使うことができます。

1.MENU ボタンを短押ししてメニュー設定に入ります。調整ダイヤルを<SCAN>に回し、短押しして選択された SCAN 値を設定します。



2. ダイヤルを回して START を選択し、選択後に設定ボタンを短押ししてスキャンを開始し、しばらくしてから画面に 8 グループのアイドルチャンネルが現れ、スキャンしたチャンネルを参考にしてマスターフラッシュライトのワイヤレスチャンネルを再設定することができます。

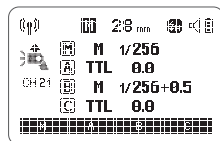


TTL: 全自動ワイヤレスフラッシュ撮影

1つのスレーブユニットを使用したオートフラッシュ撮影

1. マスターユニットの設定

ワイヤレスボタンを短押しし、画面にワイヤレス <W> を表示させ、カメラに取り付けられた V1Pro をマスターユニットとして設定します。カメラに取り付けた V1Pro をマスターユニットとして設定します。M/A/B/C のいずれも TTL を単独設定できます。



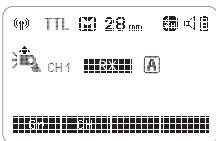
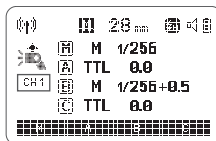
2. スレーブユニットの設定

ワイヤレスボタンを短押しして画面に <RX> を表示させると、ワイヤレス制御されたフラッシュユニットをスレーブユニットに設定し、A/B/C/D/E を選択することができます。



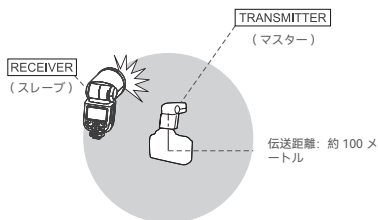
3. 伝送チャンネルの検査

マスターユニットとスレーブユニットのワイヤレスチャンネルは同じように設定する必要があります。例えば、マスターユニットのチャンネルは 01 の場合、スレーブユニットも 01 です。



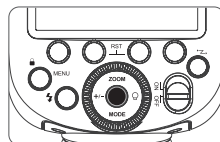
4. カメラとフラッシュの位置付け

マスターユニットとスレーブユニットの伝送距離は最大約 100 メートルです。



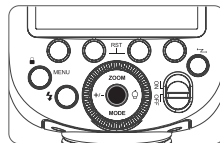
5. フラッシュ準備状態の確認

マスターユニットのフラッシュライトの準備完了インジケータが点灯していることを確認します。スレーブフラッシュライトが準備完了後、自動的に補助ライトの発光エリアに焦点を合わせて 1 秒おきに点滅します。



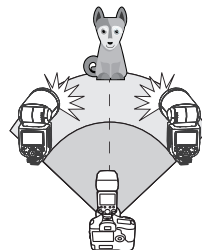
6. 操作検査

マスターフラッシュライトの <F> フラッシュ試験ボタンを押すと、スレーブユニットがフラッシュします。スレーブユニットがフラッシュしない場合は、操作範囲内に置いてあることを確認してください。



複数のスレーブユニットを使用したオートフラッシュ撮影

より大きなフラッシュ出力、又はより簡単な照明が必要な場合は、スレーブユニットの数量を増やし、その単一のフラッシュライトとしてフラッシュすることができます。スレーブユニットを追加する場合、「1つのスレーブユニットを使用したオートフラッシュ撮影」と同じ手順で任意のフラッシュグループを設定できます (A/B/C/D/E)。



スレーブユニットの数量を追加し、又はマスターフラッシュライトのフラッシュを ON に設定している場合、自動制御を行ってすべてのフラッシュライトが同じフラッシュ出力でフラッシュを行い、フラッシュの総出力が露出基準に達することを確保します。

注：1. スレブユニットの自動電源オフが有効になった場合は、マスターユニットのフラッシュ試験ボタンを押すとスレブユニットをオンにすることができます。カメラの測光装置が動作している間は、フラッシュ試験を行うことができないので、ご注意ください。
2. MENU ボタンを短押しして C.Fn カスタム設定に入り、スレブユニットの自動電源オフ時間を変更して RX STBY を 60min 又は 30 min に調整できます。

全自動ワイヤレスフラッシュ

マスターユニットに設定されたフラッシュ露出補正やその他の設定もスレブユニットに自動的に設定され、スレブユニット操作が不要です。通常のフラッシュ撮影と同じ方法で、以下の設定によりワイヤレスフラッシュ撮影を行うことができます。

- フラッシュ露出補正

マスターユニットについて

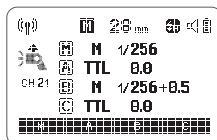
2 つ以上のマスターユニットを使用し、マスターユニットを搭載した複数のカメラを準備することで、同じ照明（スレブユニット）を維持しながらカメラを交換して撮影することができます。

M: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影

手動フラッシュを用いたワイヤレス（多重フラッシュ）撮影では、マスターユニットにすべてのパラメータを設定し、各スレブユニット（フラッシュグループ）に異なるフラッシュ出力を設定して撮影することができます。

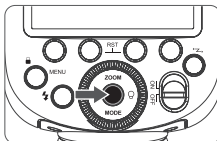
1. マスタユニットのすべてのフラッシュグループを M に設定

ワイヤレスボタンを短押しし、画面にワイヤレス <W> を表示させ、カメラに取り付けられた V1Pro をマスターユニットとして設定します。対応する機能ボタン 1/2/3/4<M/A/B/C> を短押しして画面にフラッシュグループがすべて <M> と表示させます。



2. 各フラッシュグループのフラッシュ出力の設定

機能ボタン < M/A/B/C > を短押ししてフラッシュグループを選択した後、ダイヤルを回して各グループのフラッシュ出力を設定し、設定後に設定ボタンを短押しして設定を終了します。



3. スレブユニットのチャンネルをマスターユニットと一致するように設定

マスターユニットとスレブユニットのワイヤレスチャンネルは同じように設定する必要があります。例えば、マスターユニットのチャンネルは 01 の場合、スレブユニットも 01 です。

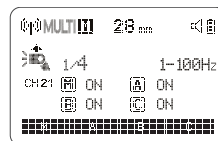
4. 写真撮影

各グループのスレブユニットは設定されたフラッシュ出力でフラッシュします。

Multi: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影

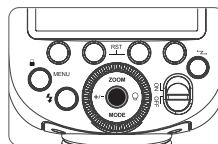
1. マスタユニットをワイヤレスストロボに設定

MODE ボタンを短押しして画面に < Multi > を表示させ、ワイヤレスボタンを短押しし、画面に < Multi > と <W> を同時に表示させます。



2. ワイヤレスストロボのフラッシュ出力、フラッシュ回数、フラッシュ周波数

<W> ボタンを短押ししてストロボ出力を選択し、ダイヤルを回してフラッシュ出力を調整し、設定後に設定ボタンを短押しして完了します。設定ボタンを短押ししてフラッシュ回数又はフラッシュ周波数を選択し、ダイヤルを回してフラッシュ回数又はフラッシュ周波数を調整し、設定後に設定ボタンを短押しして完了します。



3. スレブユニットグループのワイヤレスストロボオン / オフ設定

マスターユニットに直接スレブユニット A/B/C のワイヤレスストロボのオン / オフを設定できます。

4. スレブユニットの設定

ワイヤレスボタンを短押しし、スレブユニット画面に < Multi > と < RX > を表示させます。

5. スレブユニットのチャンネルをマスターユニットと一致するように設定

マスターユニットとスレブユニットのワイヤレスチャンネルは同じように設定する必要があります。例えば、マスターユニットのチャンネルは 01 の場合、スレブユニットも 01 です。

注：マスターユニットとスレブユニットのチャンネル、ID が一致していることを前提に、スレブユニットはそのパラメータを調整する必要はなく、直接マスターユニットでパラメータを調整することができます。

TTL 段階 / M 段階調整ダイヤル機能

1. 非ワイヤレスモードでは、TTL/M ボタンを押すとフラッシュモードをすばやく切り替えることができます。
2. TTL から M 手動モードに切り替えるとき、デフォルトで TCM で変換します。

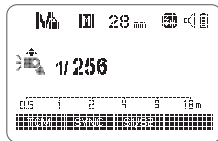
画面ロック

<⏏> ボタンを 2 秒長押しすると、画面のロック又はロック解除操作機能を行うことができます。ロック時に画面の下に LOCKED が表示されます。



モードロック

MODE ボタンを長押しすると <⏏> が現れ、現在のフラッシュモード (TTL モード又は M モード又はストロボモード) をロックし、MODE ボタンを再度長押しすると、現在のフラッシュモードを解除することができます。このとき、MODE ボタンを短押ししてモードを切り替えることができます。



Godox2.4G ワイヤレスフラッシュ漏れの原因及び解決策

1. 外部環境 2.4 G 信号干渉 (無線基地局、2.4 Gwifi ルーティング、Bluetooth デバイスなど)
→フラッシュトリガーのチャンネル CH 設定を調整し (+ 10 推奨)、干渉のないチャンネルを見つけ、又は他の 2.4G デバイスをオフにしてください。
2. フラッシュライトがすでに充電され、又はその充電速度が連写速度 (フラッシュ準備完了、インジケータが点灯) に追従しており、過熱保護又はその他の異常状態にないことを確認してください。
→フラッシュライトの段階値を下げてください。TTL モードの場合は M モードに変更してみてください (TTL モードでは事前に 1 回フラッシュする必要があります)。
3. フラッシュトリガーとフラッシュライトとの距離が近すぎるか (距離 <0.5 m)
→フラッシュトリガー上で「近距離ワイヤレスモード」をオンにしてください。
X1 シリーズ: フラッシュトリガーボタンを押し続け、インジケータが 2 回点滅するまで電源を入れます。
Xpro、X2T シリーズ: C.Fn-DIST を 0-30m に設定します。
X3 シリーズ: トリガー距離を 0-30m に設定します。
4. フラッシュトリガーおよび受信側のデバイスが低電力状態にあるかどうか
→バッテリーを交換してください (フラッシュトリガーは 1.5V 使い捨てアルカリバッテリーを使用してください)。

その他の応用

同期ソケットトリガー

同期ソケットの仕様は Φ2.5mm、ここに同期ケーブル又はトリガープラグを挿入してフラッシュライトを同期フラッシュさせることができます。

造形フラッシュ (V1Pro S)

カメラに被写界深度プレビューボタンがあれば、ボタンを押すと 1 秒間連続フラッシュを行い、これは造形フラッシュと称されます。造形フラッシュを使用すると、ワイヤレス撮影でも通常のフラッシュ撮影でも、被写体上の光と影の効果と照明のバランスを確認することができます。

注: 10 回以上連続して造形フラッシュをトリガーしないでください。10 回連続して造形フラッシュを行った場合は、フラッシュヘッドの加熱と破損を防止するため、フラッシュライトを少なくとも 10 分間冷却してください。

自動サブフォーカスライト

低輝度又は低コントラストの撮影の場合、フラッシュ内蔵のオートフォーカス補助ライトが点灯し、オートフォーカスがより容易になります。フォーカスが困難な場合、赤い補助フォーカスライトが点灯し、フォーカスが正確であれば、補助フォーカスライトが自動的に消灯します。

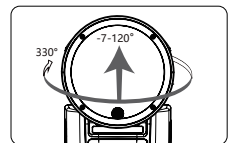
自動補助フォーカス機能をオフにする場合は、MENU ボタンを短押しして C.Fn 設定に入り、「AF」を「OFF」に調整してください。

注: 使用するとき、補助フォーカスライトが点灯しない場合は、カメラが正確にフォーカスされていることを示します。V1Pro O はオートフォーカス機能がないです。

位置	有効範囲
中央	0.6 ~ 10 メートル / 2.0 ~ 32.8 フィート
エッジ	0.6~5 メートル / 2.0~16.4 フィート

反射フラッシュ

フラッシュヘッドを壁や天井に向けてと、被写体を照らす前にフラッシュが壁面に反射されます。これにより、被写体の背後にある影を軽減し、より自然な撮影効果を得ることができます。これは反射フラッシュと称されます。



フラッシュヘッドを回して反射方向を設定します

注: 1. 壁や天井までの距離が遠い場合、反射フラッシュが弱くなり、露出が不足する可能性があります。
2. 平坦で白色壁や天井は、高い反射効果を得るには有利です。反射面が白色でない場合、写真の色が変わる場合があります。

ZOOM: フラッシュカバー範囲の設定

このフラッシュには、自動ズームと手動ズームの2種類のズーム方式があります。自動ズーム時には、カメラのズームレンズの変化に応じて焦点距離が変化し、最適なフラッシュ効果を提供します。

V1Pro S

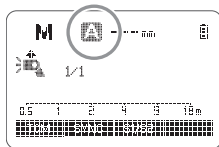
28~105mmのレンズ焦点距離に一致するようにフラッシュカバー範囲を設定することができます。

手動ズームの場合は、< ZOOM >

ズームボタンを押します。

- 調整ノブを回してフラッシュのカバー範囲を変更します。

- < **A** > が表示されている場合は、フラッシュオーバー範囲が自動的に設定されます。



V1Pro F

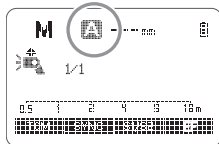
28~105mm(135 フォーマット)のレンズ焦点距離に一致するようにフラッシュカバー範囲を設定することができます。

フラッシュカバー範囲には、APSと135システムの2つの表示方法があり、C.Fn-Zoomで表示方式を選択できます。

手動ズームの場合は、< ZOOM >ズームボタンを押します。

- 調整ノブを回してフラッシュのカバー範囲を変更します。

- < **A** > が表示されている場合は、フラッシュオーバー範囲が自動的に設定されます。



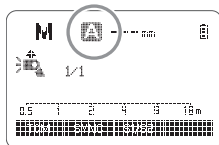
V1Pro O

14-52mm(43 フォーマット)と28~105mm(135 フォーマット)のレンズ焦点距離に一致するようにフラッシュカバー範囲を設定することができます。

手動ズームの場合は、< ZOOM >ズームボタンを押します。

- 調整ノブを回してフラッシュのカバー範囲を変更します。

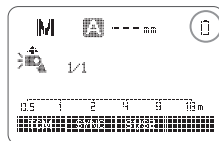
- < **A** > が表示されている場合は、フラッシュオーバー範囲が自動的に設定されます。



注：レンズの焦点距離をカバーするようにフラッシュカバー範囲を手動で設定する場合、写真に影のエッジが表示しないようになります。

バッテリー残量不足警告

バッテリー残量が低い場合、バッテリー一記号<[]>が点滅しますので、バッテリーを交換してください。



C.Fn: カスタム設定

1.MENU ボタンを短押しして C.Fn カスタム設定に入ります。

カスタム機能と符号	機能	符号	説明
m/ft	距離表示	m	メートル
		ft	フィート
	自動フォーカス補助	ON	オン
AF (V1Pro F, V1Pro S)	ラッシュ	OFF	オフ
STBY	電源自動オフ	ON	オン
		OFF	オフ
RX STBY	スレープユニットのタイマー電源自動オフ	60min	フラッシュライトをスレープユニットとして設定された場合、60分以上何らかの操作をしないと、スレープユニットは自動的に電源をオフにします。
		30min	フラッシュライトをスレープユニットとして設定された場合、30分以上何らかの操作をしないと、スレープユニットは自動的に電源をオフにします。
SCAN	アイドルチャンネルのスクラン	OFF	オフ
		START	アイドルチャンネルのスクランオン
CH	ワイヤレスチャンネル	01-32	32チャンネル
ID	識別番号 ID	OFF	オフ
		01-99	99のワイヤレス ID
BEEP	注意音	ON	オン
		OFF	オフ
LIGHT	バックライト点灯時間	12sec	12秒後に自動的に消灯
		OFF	ずっと消灯状態
		ON	ずっと点灯状態
LCD	LCD コントラスト	-3~+3	7レベル
ZOOM	ZOOM 表示方式 (V1Pro F)	APS	APS システム
		135	135 システム
	ZOOM 表示方式 (V1Pro S)	カスタムに対応できません	
	ZOOM 表示方式 (V1Pro O)	4/3	4/3 システム
		135	135 システム

注：1. 右上の「Ver.x.x」はファームウェアのバージョン番号です。
 2. ダイヤルを回してカスタム機能及びあるパラメータを選択できます。
 3. 設定ボタンを短押ししてカスタム機能を選択するか、ある設定を確認できます。
 4. カスタム機能設定完了後、MENU ボタンを短押しして主画面に戻り、カメラが撮影できるようになります。
 5. MENU メニューに入ると、「OK」が現れるまで機能ボタン1<CLEAR>を長押しし、C.Fn パラメータがリセット完了したことを示します。

保護機能

熱保護

- フラッシュヘッドの過熱による損傷を防ぐため、1/1 段階で連続 100 回以上のフラッシュを行わないでください。100 回フラッシュした後、少なくともフラッシュライトを 15 分間冷却してください。
- 100 回以上の連続フラッシュを行った直後により多くのフラッシュを継続すると、内部の過熱防止機能が有効になり、充電時間が 10 秒以上になる可能性があります。このような状況が発生した場合は、フラッシュライトを 15 分冷却させると回復できます。
- 熱保護機能が有効になったら、画面上に  が表示されます。

熱保護機能が有効になる連続フラッシュ回数:

パワー段階	連続フラッシュ回数
1/1	100
1/2 (+0.1~+0.9)	150
1/4(+0.1~+0.9)	300
1/8(+0.1~+0.9)	300
1/16(+0.1~+0.9)	1100
1/32(+0.1~+0.9)	3500
1/64(+0.1~+0.9)	3500
1/128(+0.1~+0.9)	3500
1/256(+0.1~+0.9)	3500

注: 異なる ZOOM 値の同一段階の熱保護回数は同じです。

高速同期モードにおける熱保護機能が有効になる連続フラッシュ回数:

パワー段階	連続フラッシュ回数
1/1	60
1/2 (+0.1~+0.9)	70
1/4(+0.1~+0.9)	100
1/8(+0.1~+0.9)	100
1/16(+0.1~+0.9)	100
1/32(+0.1~+0.9)	100
1/64(+0.1~+0.9)	100
1/128(+0.1~+0.9)	100
1/256(+0.1~+0.9)	100

仕様

型番	利用できるカメラ	フラッシュカバー範囲
V1Pro S	ソニーカメラ (TTL オートフラッシュ)	28-105mm
V1Pro F	FUJIFILM 富士デジタル一眼 レフカメラ	28-105mm 又は 18-69mm
V1Pro O	Olympus オリンパス /Panasonic 松下 デジタル一眼レフカメラ	28-105mm 又は 14-52mm

フラッシュパラメータ	
フラッシュカバー範囲	・ 自動ズーム (適切なレンズ焦点距離と画像寸法のフラッシュカバー範囲を自動的に設定します) ・ 手動ズーム ・ フラッシュヘッドの回転 / 傾斜、水平 0 ~ 330°、垂直 - 9° ~ 120° (反射フラッシュ)
フラッシュ持続時間	1/300 秒 - 1/20000 秒
パワー (1/1 段階)	76Ws
露出制御	
露出制御システム	TTL オートフラッシュ、手動フラッシュ
フラッシュ露出補正 (FEC)	手動: ±3 階段間で 1/3 で調整します
同期方式	高速同期 (最大 1/8000 秒)、フロントカーテン同期、リアカーテン同期
ストロボフラッシュ	(最大フラッシュ回数 90 回、最大フラッシュ周波数 100 Hz)
ワイヤレスフラッシュ (2.4G ワイヤレス伝送)	
ワイヤレス機能	マスターユニット送信、スレーブユニット受信、オフ
マスターユニットグループ	M,A,B,C
制御できるスレーブユニットグループ	A,B,C,D,E (グループ E は X シリーズのフラッシュトリガーで制御できます。)
伝送範囲 (約)	100m
チャンネル	32 グループ :01-32
ID	OFF/Q1-99
自動フォーカス補助フラッシュ	
有効範囲 (約)	中央 :0.6-10 メートル / エッジ :0.6-5 メートル
LED 造形ライト	
パワー	2w
色温度	3300K±200K
電源	
内蔵リチウムバッテリー	7.2V/2980mAh リチウムバッテリー
充電時間	約 1.3 秒、フラッシュライト準備完了後、充電インジケータが点灯します
フラッシュ回数 (1/1 段階のフラッシュ出力)	約 500 回

省エネ	フラッシュライトをマスターユニットとして設定すると、90秒を超える自動的に電源をオフにします。スリープユニットとして設定すると、60分（又は30分）後にスリープ状態になります。
同期トリガー方式	ホットシュー、2.5mm同期ケーブル
寸法	
体積	156mm×76mm×124mm
正味重量 （バッテリーを除く）※	466g
正味重量 （バッテリーを含む）※	580g

仕様とパラメータは、予告なしに変更する場合があります。

トラブルシューティングガイド

問題が発生した場合は、このトラブルシューティングガイドをご参照ください。

フラッシュライトがフラッシュしない

- フラッシュライトはカメラにしっかりと装着されていません。
→フラッシュライトのホットシューをカメラにしっかりと装着してください。
- フラッシュライトとカメラの電子接点が汚れています。
→接点部をきれいに清掃してください。

電源自動オフ

- ライトがマスターユニットとして使用する場合に90秒以上何らかの操作をしないと、自動電源オフ機能が有効になります。
→シャッターボタンを半押しするか、本体の任意のボタンを押してウェークアップします。
- スリープユニットとして使用する場合に60秒（又は30秒）何らかの操作をしないと、フラッシュライトがスリープ状態になります。
→本体の任意のボタンを押してウェークアップします。

自動ズームが動作しない

- フラッシュライトはカメラにしっかりと装着されていません。
→フラッシュライトのホットシューをカメラにしっかりと装着してください。

フラッシュ露出不足又は露出過度

- 高速同期を使用しています。
→高速同期を使用すると、有効なフラッシュ範囲が小さくなり、被写体が表示される有効フラッシュ範囲内にあることを確認してください。
- フラッシュライトは手動露出モードを使用しています。
→TTLモードに変更し、又はフラッシュ出力の設定を修正します。

写真に暗い角が現れ、又は被写体の局所しか照らしていない

- カメラレンズの焦点距離はフラッシュライトのカバー範囲を超えています。
→フラッシュライト現在のカバー焦点距離をチェックしてください。本製品のヘッドズーム範囲は全画幅システム28-105mm(V1Pro S)、全画幅システム28-105mm又は4/3システム14-52mm(V1Pro O)、全画幅システム28-105mmまたは非全画幅システム18mm69mm(V1Pro F)です。

ファームウェアアップデート

- 本製品のUSBポートはUSB-Cポートであり、USB-Cケーブルを使用してください。
- 製品のファームウェアアップデートにはGodox G3プログラムソフトウェアが必要です。ファームウェアをアップデートする前に「Godox G3ファームウェアアップデートソフトウェア」をダウンロードしてインストールし、適切なファームウェアファイルを選択してください。
- 注：製品のファームウェアアップデートのため、説明書は最新の電子版をご参照ください。

利用できるカメラリスト

V1Pro S

この機器は、以下のソニーのカメラモデルに利用できます。
a77II, a99, a77, DSC-RX10, a6000, a7R, a6400, a7RII, a7RIII, a7M3, a9, a7RIV, a7R5, a7MIV, ZV-E10, a58, ILCE6000L, a7R3, a350

- 注：1. カメラX100Tはリアカーテン同期機能がありません。
2. AF補助フォーカスランプは、シャッター低速（< 200）時に点灯します。
3. この表は、現在試験されているカメラのモデルのみを記載しており、すべてのカメラは含まれていません。他のカメラモデルは、ユーザーが自分でテストすることができます。
4. 弊社は、この表の内容を将来変更する権利を留保します。

V1Pro F

富士のフラッシュに対する制御によって、次のカテゴリに分類されます。
A類：X-Pro2、X-T20、X-T2、X-T1、X-T3、X-T4、X-T30、GFX50S、GFX50R
B類：X-Pro1、X-T10、X-E1、X-A3
C類：X100F、X100T

対応できるカメラと機能比較表：

セットトップフラッシュライト							
カメラ	TTLフラッシュ制御			Mフラッシュ制御			重複フラッシュ
	標準	REAR(リ アカーテン 同期)	HSS(高速同期)	標準	REAR(リ アカーテン 同期)	HSS(高速同期)	
カテゴリA	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
カテゴリB	✓	--	--	✓	--	--	✓
C類	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

セットトップフラッシュライト							
カメラ	TTLフラッシュ制御			Mフラッシュ制御			重複フラッシュ
	標準	REAR(リ アカーテン 同期)	HSS(高速同期)	標準	REAR(リ アカーテン 同期)	HSS(高速同期)	
カテゴリA	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
カテゴリB	✓	--	--	✓	--	--	✓
C類	✓	✓	--	✓	✓	--	✓

カメラ	AF補助フォーカスライト
カテゴリA	✓
カテゴリB	--
C類	--

V1Pro O

この機器は、以下のカメラモデルに利用できます。

Olympus:E-M10II、E-M10III、E-M5II、E-M1、E-PL8、E-PL7、E-PL6、E-PL5、E-P5、E-P3、PEN-F

Panasonic:DMC-GX85、DMC-G7、DMC-GF1、DMC-LX100、DMC-G85、DMC-GH5、GH4、DMC-FZ2500GK、LX100、S1

メンテナンス

- フラッシュライトの動作中に異常が発生した場合は、すぐに電源を切って原因を究明してください。
- ライト本体は振動を避け、表面にほりがないように注意してください。
- ライト本体のやや発熱は正常であり、特に必要がない場合は、連続フラッシュを行わないでください。
- すべての修理は、当社が指定された純正部品を供給できる修理部門によって行います。
- 保証期間は1年です、ランプなどの消耗品は1年保証対象外です。
- このフラッシュライトを無断で修理していることが判明された場合、フラッシュライトの1年保証期間をキャンセルし、かかる修理費用を請求します。
- 本製品が故障したり、水に濡れたりした場合は、専門者によって修理してから使用してください。
- 技術的な変更は予告なしに行う場合があります。

製品の修理保証

ご使用者様、本修理保証カードは修理保証の申請用の重要な証明書でございます。販売店にご協力いただき、ご記入とご保管ください。ありがとうございます。

製品情報	型号	製品のバーコード
ご使用者情報	名前	電話番号
	連絡先	
販売店情報	名称	
	電話番号	
	連絡先	
	販売日期	
備考欄		

本表は販売店より捺印が必要。

適用な製品

本書類は『製品修理保証情報』（後記の説明をご覧ください。）に関する製品シリーズに適用して、そのほかの本範囲に属していない製品あるいは部品（セール品、贈り物、ほかの出荷後の添付した部品等）はこの修理保証承諾に属していません。

修理保証期間

製品及び関連部品との修理保証期間は『製品修理保証情報』で実施します。修理保証期間は製品を初めて購入するときから数えて、購入日は購入するときに修理保証カードで記入された日期を基準とします。

修理保証サービスの獲得方法

修理保証サービスを要求したら、直接に製品の販売店または授權されたサービス機構と連絡できます。神牛のアフターサービスに電話をかけることもできます。我々のサービス員はサービスを手配します。修理保証を申請するときには、証明書として有効な修理保証カードを提供して修理保証が得ることができます。有効な修理保証カードを提供できないなら、我々は製品または部品が修理保証範囲に属することを確認したうえ、修理保証サービスも提供できますが、それはわれわれの義務となりません。

修理保証に適用しない場合

もし製品は以下の状況があるなら、本書類で記入された保証とサービスに適用しません。
①製品または部品は相応な修理保証期間を超えること；②正しくなく使用、メンテナンス、保管によって故障や損壊を起こすこと。例えば：不適当に運搬；製品の合理的な予期の用途で使用しないこと；不適当に外部設備を挿したり 抜いたりすること；落ちることや押しつぶすこと；不適当な温度、溶剤、Ph、湿っぽい環境の中に置くこと；③神牛が授權されていない機構または整備員より取り付けたり、修理したり、変更したり、添付したりしたり分解したりすることで起こした故障と損壊；④製品または部品のももとの標識マークが修正し変更されたり、削除されたりすること；⑤修理保証カードがないこと；⑥非合法な授權、標準街、公開されていないで発行するソフトウェアなどを使用して起こした故障や損壊；⑦不可抗力や事故で起こした故障や損壊；⑧ほかの製品自体で起こした故障や損壊ではないこと上述の状況であれな 関連の責任者と解決対策を求めてください。我々はそれに対していかなる責任を持ちません。修理保証期間外や修理保証範囲外での部品、付属品、ソフトウェアなどで使用しなくなることについて、修理保証範囲内の故障ではありません。使用中、製品の正常的な脱色、摩耗と消耗は修理保証範囲内の故障ではありません。

製品の修理保証とサービスサポートとの情報

製品の修理保証期間とサービスタイプとは『製品修理保証情報』によって実施します。

製品類別	オプションの名称	修理保証期間	修理保証サービスの類型
部品	電池	12	顧客より修理出し
	電池	3	顧客より修理出し
	充電器などの充電性能の部品	12	顧客より修理出し
部品	フラッシュチューブ、造形の電球、ケース、保護カバー、ロック装置、包装等	なし	修理保証なし

神牛製品のアフターサービス電話番号: 0755-29609320-8062